

・下記でを使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の株式市場

市場の動向

日本株式市場の代表的な指数である東証株価指数(TOPIX)は、20日比で3.54%上昇しました。

日本株式市場では、前週までの調整による値ごろ感から自律反発狙いの買い、期末の配当や優待の権利取り狙いの買いや、機関投資家の期末の成績改善を狙った買いなどがみられました。ファンダメンタルズに特段変化がなく、需給要因を中心とした動きが目立つ中で、日本株式市場は上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 4月1日発表 日銀短観(3月調査)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

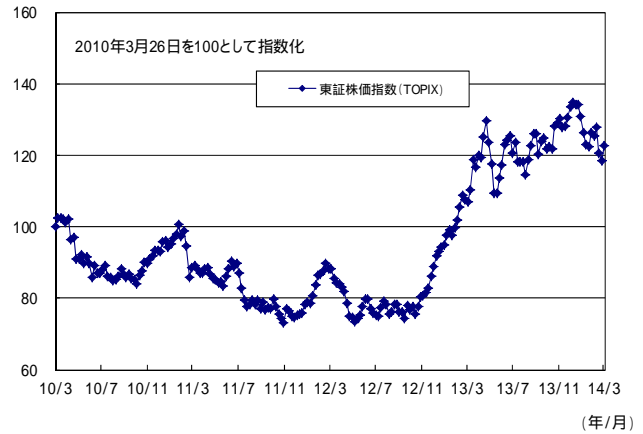
先週の騰落率

3.54%

先週の相場動向



<期間> 2010年3月26日～2014年3月28日



東証株価指数(TOPIX)	2014/3/20	2014/3/28	騰落率
	1,145.97	1,186.52	3.54%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数(TOPIX)の指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界の株式市場

市場の動向

海外株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI-KOKUSAI指数は、21日比円ベースで、0.91%上昇しました。

米国株式市場(現地通貨ベース)は、根強い早期利上げ懸念や市場の高値への警戒感に加え、2013年10-12月期の米GDP(国内総生産)確報値をはじめ、市場予想を若干下回る経済指標が相次いだことや、米大手銀行のストレステスト(健全性審査)で株主還元策を抑制された金融機関もあったことなどをを受けて、下落しました。

欧州株式市場(現地通貨ベース)は、ECB(欧州中央銀行)による追加金融緩和策への期待や中国首相が景気刺激策に前向きな姿勢を示したことなどをを受けて、上昇しました。

アジア(日本を除く)オセアニア株式市場(現地通貨ベース)は商品市況の上昇や中国の景気刺激策への期待などをを受けて、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 4月1日発表 米ISM(供給管理協会)製造業景況感指数(3月)
- 2日発表 米製造業受注指数(2月)
- 3日発表 ECB金融政策
- 4日発表 米雇用統計(3月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

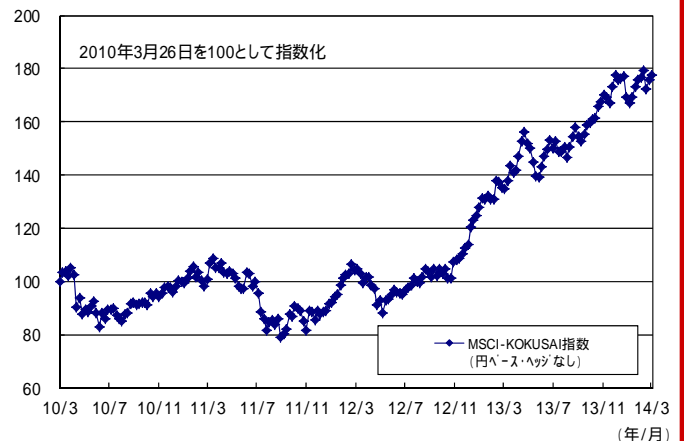
先週の騰落率

0.91%

先週の相場動向



<期間> 2010年3月26日～2014年3月28日



MSCI-KOKUSAI指数 (円ベース・ヘッジなし)	2014/3/21	2014/3/28	騰落率
	2,042.11	2,060.64	0.91%
円/ドル	102.38円	102.93円	0.53%
円/ユーロ	141.11円	141.55円	0.31%

<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記でを使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の債券市場

市場の動向

日本の債券市場動向を表す代表的な指標であるNOMURA-BPI総合は、20日比で0.15%下落しました。
日本債券市場は、低水準の債券利回りを理由に機関投資家が積極的な債券購入を手控えたことや、日銀が実施した国債買い入れオペが、投資家の需要の乏しさを示唆する内容となったことなどを受けて、下落しました。
長期金利の指標となる10年国債利回りは、20日比で上昇(価格は下落)し、0.63%となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日発表 鉱工業生産指数(2月)
- 4月1日発表 日銀短観(3月調査)

など

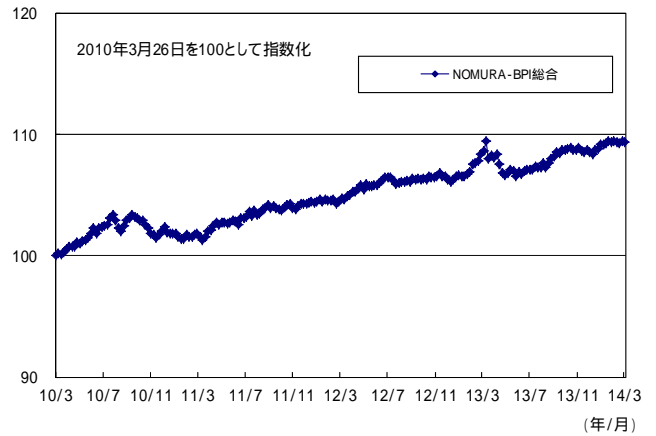
	2014/3/20	2014/3/28	変化幅
日本10年国債利回り	0.60%	0.63%	0.03%

ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合:	😊	先週の騰落率	先週の相場動向
騰落率がマイナスの場合:	😞	-0.15%	📉
騰落率が横ばいの場合:	😐		

<期間>2010年3月26日～2014年3月28日



NOMURA-BPI総合	2014/3/20	2014/3/28	騰落率
	353.64	353.10	-0.15%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

世界の債券市場

市場の動向

世界債券市場の動きを示す代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、21日比円ベースで、0.97%上昇しました。
米国債券市場(現地通貨ベース)は、2月の米耐久財受注で、航空機を除く非国防資本財(コア資本財)の受注が市場予想を下回ったことなどを背景にして、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。
欧州債券市場(現地通貨ベース)では、ECBの高官から追加緩和期待を高める発言がなされたことなどを背景にして、ドイツ国債利回りは低下しました。
為替は、21日比で円/ドルレートは円安・ドル高、円/ユーロレートは円安・ユーロ高となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

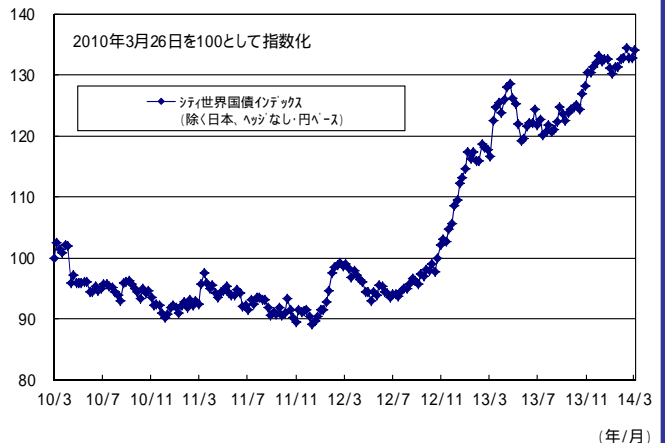
- 31日発表 ユーロ圏CPI(消費者物価指数、3月)
- 4月1日発表 米ISM製造業景況感指数(3月)
- 3日発表 ECB金融政策
- 3日発表 米ISM非製造業景況感指数(3月)
- 4日発表 米雇用統計(3月)

など

	2014/3/21	2014/3/28	変化幅
米国10年国債利回り	2.74%	2.72%	-0.02%
ドイツ10年国債利回り	1.63%	1.55%	-0.08%

騰落率がプラスの場合:	😊	先週の騰落率	先週の相場動向
騰落率がマイナスの場合:	😞	0.97%	😊
騰落率が横ばいの場合:	😐		

<期間>2010年3月26日～2014年3月28日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2014/3/21	2014/3/28	騰落率
	409.43	413.39	0.97%
円/ドル	102.38円	102.93円	0.53%
円/ユーロ	141.11円	141.55円	0.31%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMOイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Global Markets Inc.の知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Global Markets Inc.が有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記でを使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

J-REIT市場

市場の動向

J-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は、20日比で1.83%上昇しました。国内株式市場が上昇したことなどが背景にあります。

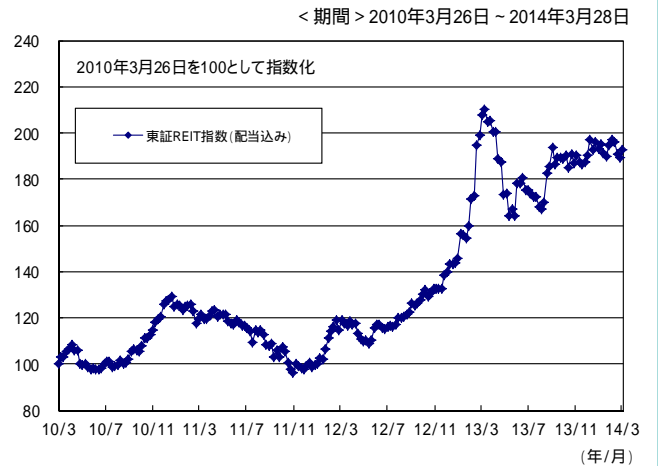
国土交通省が平成25年12月分速報の不動産価格指数(住宅)を発表しました。そのうち、マンション指数(全国)は113.4となり、指数が作成されている2008年4月以降の最高値となりました。また、前年同月比は+9.1%となり、2013年1月分より12ヵ月連続でのプラスとなりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日発表 鉱工業生産指数(2月)
- 4月1日発表 日銀短観(3月調査)

など

騰落率がプラスの場合: 😊	先週の騰落率	先週の相場動向
騰落率がマイナスの場合: ☹️	1.83%	😊
騰落率が横ばいの場合: 😐		



<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界のREIT市場

市場の動向

世界REIT市場(S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み))は、21日比円ベースで、1.27%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、3月の米消費者信頼感指数が市場予想を上回ったことや、週間の米新規失業保険申請件数が前週比で減少したことなどから上昇しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、3月のユーロ圏景況感指数が市場予想を上回ったことなどが背景となり上昇しました。

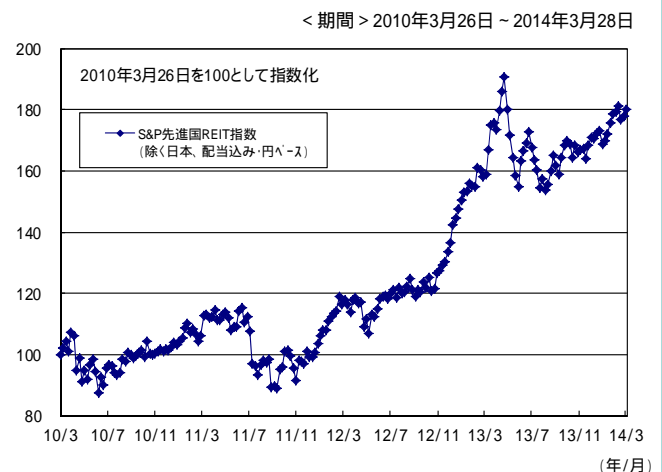
豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、一部投資家の売りなどから下落しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日発表 ユーロ圏CPI(3月)
- 4月1日発表 米ISM製造業景況感指数(3月)
- 3日発表 ECB金融政策
- 3日発表 米ISM非製造業景況感指数(3月)
- 4日発表 米雇用統計(3月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊	先週の騰落率	先週の相場動向
騰落率がマイナスの場合: ☹️	1.27%	😊
騰落率が横ばいの場合: 😐		



<指数出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMOロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード・&・プアーズ・ファイナンシャル・サービシズ・エル・エル・シーの所有する登録商標です。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

新興国の株式市場

市場の動向

新興国株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、21日比円ベースで4.86%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、同国の首相が景気刺激策を講じる可能性を示唆したことや、銀行などの企業決算が概ね好調だったことを受けて上昇しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、ウクライナ情勢をめぐる緊張がさらに高まるとの懸念が後退したことや、原油先物価格の上昇などを受けて上昇しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、同国の大統領の支持率低下により、経済政策変更への期待が高まったことなどから上昇しました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、中国株の上昇や商品市況の上昇などを受けて上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 4月1日発表 中国製造業PMI(購買担当者景気指数、3月)
- 2日発表 ブラジル鉱工業生産指数(2月)
- 2-3日発表 ロシアGDP(2013年10-12月期) など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

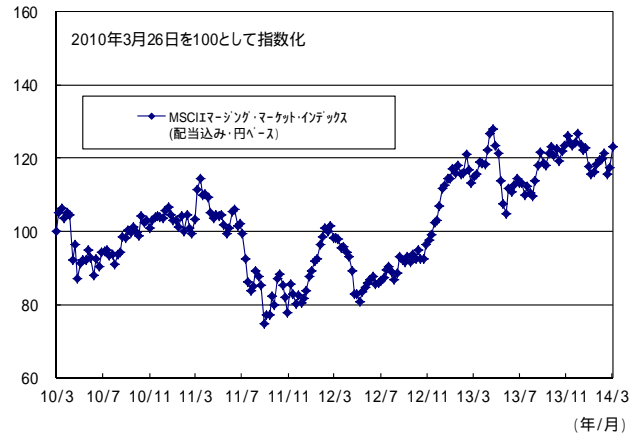
先週の騰落率

4.86%

先週の相場動向



< 期間 > 2010年3月26日～2014年3月28日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2014/3/21	2014/3/28	騰落率
	1,560.27	1,636.06	4.86%

< 出所 > FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

新興国の債券市場

市場の動向

新興国債券市場全体の動きを示す代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、21日比円ベースで、2.77%上昇しました。

ハンガリーでは、ハンガリー国立銀行(中央銀行)が金融政策決定会合で政策金利を0.10%引き下げ、2.60%としました。こうした投資環境の中、同国の債券指数は上昇しました。

ブラジルでは、格付会社S&Pが同国の外貨建て長期債務格付および自国通貨建て長期債務格付をそれぞれ1段階引き下げました。一方、格付見直しについては、ネガティブから安定的に変更され、当面は更なる格下げ余地は限定的との見方が広がりました。こうした投資環境の中、同国の債券指数は上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 31日発表 トルコGDP(2013年10-12月期)
- 31日発表 ポーランド経常収支(2013年10-12月期)
- 4月1日発表 インドネシアCPI(3月)
- 1日発表 ブラジル貿易収支(3月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

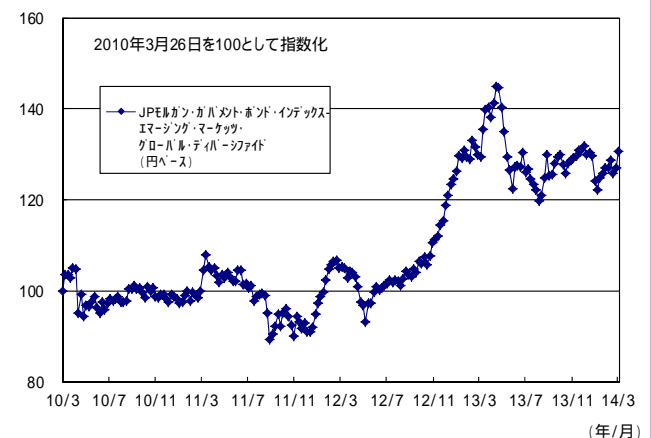
先週の騰落率

2.77%

先週の相場動向



< 期間 > 2010年3月26日～2014年3月28日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)	2014/3/21	2014/3/28	騰落率
	247.60	254.46	2.77%

< 出所 > ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(JP Morgan Government Bond Index - Emerging Markets Global Diversified)は、J.P.Morgan Securities LLCが公表している。現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

投資信託に係る費用について

2014年3月現在

ご購入時手数料 (上限4.2%(税込み) ¹⁾	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用(信託報酬) (上限2.121%(税込み) ²⁾	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 (上限0.5%)	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

1、 2 消費税率が8%となる平成26年4月1日以降は、 1が4.32%(税込み)、 2が2.1816%(税込み)となります。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

(ご注意) 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。